

働く男のライフスタイル情報紙

BizLifeStyle [ビズスタ]

2015 12

特別版

『BizLifeStyle』は東京、神奈川、関西、京都・滋賀、仙台、福岡にて45万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社ディリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2015 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



袖元に、美の深遠。
カルティエ。

クレドゥ カルティエ ウォッチ
WGCL0006
40mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド
4,600,800円(税込)

My Favorite Life Style

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ
W2CL0004
31mm、自動巻き、
ステンレススティール&ピンクゴールド
982,800円(税込)



Photo 2000 © Cartier



パロン ブルー ドゥ カルティエ ウォッチ
W6920042
42mm、自動巻き、スティール
837,000円(税込)

© Cartier



サントス ドゥモワゼル ウォッチ
WF9011Z8
ミニモデル、18Kピンクゴールド、ダイヤモンド
3,456,000円(税込)

© Cartier



タンク アングレーズ ウォッチ
W5310028
SM、18Kイエローゴールド、レザー
1,296,000円(税込)

© Cartier

Clé de Cartier

クレ ドゥ カルティエ



Eric Maillat © Cartier

「王の宝石商」が腕時計に与えた「美の世界」。

イン、丸みを帯びた側面が特徴の各モデルは、かつて「王の宝石商」が腕時計を懸念とさせた「ケース」の融合がデザイン上の基礎となっていた。

身に付けてみると、そのひびく思わすのき込みで、まるで美が息を吐いてに気付く。ケースが、ハセル、風防の周囲にあるリングと一体となっていて、そのまじ、ストラップ以外のすべてが統合されていることになる。モデルに、よほどはさびたな、タイム、下、輝くなど、思わす魅入られて、じつじつと、な、美、を、展、開、し、て、い、る。

「レクシオン」にある「レク」は、「鍵」を意味する仏単語だ。それは、極めて特徴的な「レク」を、レク、を、着、せ、よ、う、と、指、し、て、い、る。レク、を、着、せ、よ、う、と、指、し、て、い、る。レク、を、着、せ、よ、う、と、指、し、て、い、る。レク、を、着、せ、よ、う、と、指、し、て、い、る。

の十八番だが、それがレクニスにまで及んでいく。これは、改めて驚く。「1847-MC」と名付けられた最新の自社製ムーブメントが搭載されており、腕部に創業の年を冠した「1847」のレクニオンを、その位置づけて、い、る、の、か、が、読、み、取、れ、る。

思、わ、す、の、息、が、出、る、よ、う、な、仕、上、げ、の、精、度、時、代、の、流、れ、中、で、磨、き、上、げ、ら、れ、た、デ、ザ、イ、ン、ハ、ン、ス、時、計、は、で、完、結、す、る、の、で、は、な、く、ほ、か、の、ワ、ッ、チ、シ、ャ、イ、ン、と、の、調、和、に、ま、で、目、が、配、ら、れ、た、完、成、さ、れ、た、美、美、手、に、取、る、時、は、せ、ひ、ク、エ、ス、の、裏、手、で、堪、能、し、て、い、る。

「パロンブルー ドゥ カルティエ」は、ケースデザインの体成形に対する同社のこだわりが視覚的に分かる作品だ。ラグやベゼルが極端に縮められたため、円形のガードで覆われたレクニスやラウンドのついた風防が目が行く。優れたディテールデザインを強調するには、質感と色が重要な役割を果たす。無言で教えてくれるからだ。

その下は、サントス ドゥ カルティエの女性向けの「レクニオン」だ。サントスの「レクニオン」は、誕生から実に100年を超える歴史を誇る。1904年、フライト中に時鐘を確認したいという飛行家の要請から生まれたというのだが、この目にも、敢、し、デ、ザ、イ、ン、は、だ、ら、う、だ、。今、言、え、ス、ポ、ツ、ウ、オ、チ、の、先、祖、と、も、言、え、る、が、そ、れ、を、こ、ま、で、庄、倒、的、な、レ、ガ、ン、ス、で、ま、と、め、て、し、ま、う、の、が、カルティエの真骨頂。

「一番下のタンクアングレーズ」も、勇壮な名を持つ製品だ。第2次大戦中に活躍した戦車のフォルムから着想し、1907年に誕生したタンク。こちらにも、敏感なジュエリーのDNA

を、隠、し、切、れ、な、い、と、い、つ、た、趣、だ、。現、在、は、切、削、り、作、ら、れ、て、い、る、が、か、つ、て、は、ジュエリーと同様に一枚の金の板を折り曲げて作られていたという。もちろん、当時の時計メーカーにはなかった発想で、彼らの驚愕が目に浮かぶようだ。

各モデルを詳細に解説していき、と、も、で、は、な、い、が、紙、面、が、定、り、な、い、だ、が、写、真、を、眺、め、る、た、け、で、も、時、計、の、美、を、生、み、出、し、た、メ、ン、ト、と、評、さ、れ、る、理、由、が、お、分、か、り、い、た、け、れ、ば、す、ば、だ、。

* * * * *

現在のカルティエは、内部機構もすべて自作する「インハウス」モデルへと成長を遂げている。ロロのフロラクトデザイナーさえ、憧れるデザイナー性、精密機械の象徴的存在たる時計のムーブメントづくりを、ワッチショップで完成できるというのは、「真のウォッチメイカー」という呼称が相応しい。

そこで、次ページでは、同社の時計製造の裏側を少し覗いてみよう。



「クレ ドゥ カルティエ」のために新たに開発された自社製ムーブメント「1847-MC」
Eric Maillat © Cartier

腕時計のデザインを確立し、いまも革新を牽引し続けるカルティエ。現在のトレンドは、最新コレクション「レクニオン」で、腕時計を手に取れば、ひと目で分かる。やわらかなカーブ、美しいラ

ことごとく、美を追求し続けてきたカルティエ。その姿勢が成功を生み、揺るぎない地位を固めた。今も不変。では、現在、どんな美を創り出しているのだろうか。

独創的なデザインが結晶した最新作

「時計の美を創り出したメゾン」

1847年、フランスはパリで開業した「カルティエ」。ジュエリー界を代表する名門だが、ウォッチメイカーとしても名高い存在だ。ジュエリー同様、その歴史は常に「美」に彩られており、世界中のセレブリティやエグゼクティブたちの手首を飾っている。

スイスを中心に、多くの名ブランドがひびくきあうウォッチ市場。高級腕時計と聞くと、「精緻な極めた部品や」「熟練の職人たちの思い浮かべる。だが、カルティエは、美学的な側面から腕時計の進化を促してきた。ウォッチデザインを完成させ、それを刷新し、生命力を与え続けてきた立役者なのだ。

「時計の美を創り出したメゾン」

1847年、フランスはパリで開業した「カルティエ」。ジュエリー界を代表する名門だが、ウォッチメイカーとしても名高い存在だ。ジュエリー同様、その歴史は常に「美」に彩られており、世界中のセレブリティやエグゼクティブたちの手首を飾っている。

スイスを中心に、多くの名ブランドがひびくきあうウォッチ市場。高級腕時計と聞くと、「精緻な極めた部品や」「熟練の職人たちの思い浮かべる。だが、カルティエは、美学的な側面から腕時計の進化を促してきた。ウォッチデザインを完成させ、それを刷新し、生命力を与え続けてきた立役者なのだ。

腕時計のブランドは、大きく2種類に分かれると考えればよいだろう。ひとつはウォッチメイカー、もうひとつはジュエリーだ。前者は、時計の本体である機構部分、いわゆる「ムーブメント」の製造を得意とする。後者は、それを保護する外装部分、つまりケースとストラップの部分を相手に委ねながら、自社の領域に注力している。そう考えれば、分かります。

今こそ、私たちは腕時計を「ケースとストラップがひとつになったもの」と認識する。だが、1900年代初頭の時計づくりは、時計の本体が格納されているケースに対し、ストラップを取り付ける金具（ラグ）と呼ばれるものを後から溶接するというスタイルが一般的だった。この常識を覆し、早々と両者を融合させたのがカルティエだ。20世紀の半ばには、ラグを省いてケースと一体化することで、より大胆な造りが可能に。1900年代に発表された「クラッシュ」では、現代美術と見紛う水準にまで発展させ、世界中を驚かせた。

Biz Life Style Pick up >>> 時代を先導し、しかも長く色褪せない。それが、カルティエの美。



常に時代を先駆けながら、時を超えて生き続けるカルティエのウォッチデザイン。今見ても風格たっぷりアンティーク時計に映るはずだ。中でも右の2点には注目。サントスとタンク、ページ上部の最新モデルと見比べれば、基本的なデザイン思想がいかに優れたものだったかが理解できるだろう。

Photographs by Yu Mitamura ※年号表記について、(上段)初出、(下段)制作年

100年前のモデルでも驚異の完成度

腕時計に新風を吹き込み、パイオニアとなつたカルティエ。同社のウォッチの歴史は、1904年(一般発表は7年後)の「サントス」から始まった。左の写真と現行モデルを見比べると、基本的なデザイン思想はほとんど揺らがないことに気付く。これは驚異的と言えよう。

その隣の「タンク サントス」も同様だ。1906年に制作されたモデルだが、タンクのDNAは今も受け継がれている。さらに隣の「パロン」の時計は、1906年初出の「レクニオン」に似ている(モデルは1905年制作)。レクニオンは、今もカルティエの美がいかに長く生き続けるかの好例だ。

その一方で、タリの作品を思わせるような挑戦的なデザインも、モデルは1900年制作。貪欲なまでの美の追求が、現在の名声を築いてきたのだ。



Photo 2000 © Cartier
Photo 2000 © Cartier
Photo 2000 © Cartier
Photo 2000 © Cartier

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ WJCL0002
31mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド、ダイヤモンド
4,590,000円(税込)

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ WGCL0004
40mm、18Kピンクゴールド、レザー
2,322,000円(税込)

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ WJCL0016
31mm、自動巻き、18Kピンクゴールド、レザー、ダイヤモンド
3,142,800円(税込)

クレ ドゥ カルティエ ウォッチ WGCL0006
40mm、自動巻き、18Kホワイトゴールド
4,600,800円(税込)

My Favorite Life Style



Oliver Ziegler © Cartier 2009

「真のウォッチメイカー」を支える自社工房。

中面では主にジュエリーとしてのカルティエについて紹介したが、もちろん自社の製造拠点を有している。創業以来、揺らぐことなくデザインにこだわり続けてきた腕時計へのモチベーションは、いまや駆動装置、いわゆるムーブメントにまで広がっているのだ。

設計部門と製造部門を一体化し
ムーブメントも自社生産

写真は、2000年に完成したスイスのラショー・ド・フォンにある時計工房。6万㎡にも及ぶ敷地に付む建物内では、ケースや針、機構部品の製造だけでなく、設計や技術の継承、アンティーク品の修復作業が行われている。

同工房は、機構と外装の各製造部門に加えて、設計部門も置かれているのが特徴だ。また、昨年9月には、工芸技術とジュエリーウォッチ製造技術を一体化させた「メゾン・デ・メティエ・ダール」も開設されている。

設計部門と製造部門の距離をゼロにすることで、デザイン性はさらに強化された。ムーブメントの設計製造を自社で行うだけに留まらず、今ではパーツにまで美を追い求めているというのだから、何ともカルティエらしい。受け継ぐべき技術を途切らせないことなく、それでいて市場からのニーズに応える首尾一貫の自社生産体制。これが、現在のカルティエの姿なのだ。

生涯にわたって衰えぬ美を提供する
揺るぎない「ミニユファクチュール」

ジュエリーとしてスタートしたカルティエは、100年もの時の流れの中で、トレンドを牽引する傑作を多数生み出してきた。それは、機械ではなく美しさを欲する層をウォッチの世界に

誘い、業界全体の活性化に貢献してきた。だが、現在のカルティエは、ムーブメントを自作できるだけの製造技術に加え、その「美の追求」が徹底されている分、もはやウォッチメイカーを凌ぐほどの存在になったと言えよう。まさに「ミニユファクチュール」(自社貫製造の時計メーカー)の称号が相応しい。

カルティエのウォッチは、もちろん日本でも幅広い層に愛され続け、多数の愛用者を抱えている。実際のモデルは以下の店舗で手に取ることができるので、ぜひお出かけいただきたい。

真のウォッチメイカーが創り出す、生涯にわたって衰えることのない美。これから腕時計の愉しみを味わいたい方には、「最初の一本」として、これほど似つかわしいメゾンもないだろう。



【左】コンプリケーションムーブメントの組立工程。カルティエはジュネーブにも工房を有している。
【右】上の写真の建物の2階が設計部門のオフィス。階下の製造部門とは常にコミュニケーションが取れる環境。
Photo by Masahiko Takeda



hug everyone.
ながの東急百貨店
TOKYU

〒380-8539 長野市南千歳 1-1-1 TEL.026(226)8181(代表) http://www.nagano-tokyu.co.jp
営業時間:午前10時~午後7時30分(日曜・祝日・連休の最終日は午後7時営業 ※連休の中日の日曜・祝日は除く)

Biz Life Style Pick up >>>>

ながの東急百貨店 別館シェルシェ4階の
カルティエウォッチサロンが
リニューアルオープン

ながの東急百貨店別館シェルシェ4階にある時計サロンは、長野県内では唯一のカルティエウォッチ正規取扱店だ。同店の「カルティエウォッチサロン」が、装いも新たにリニューアルオープンした。

新しいサロンは、よりクラシカルで、よりラグジュアリーな雰囲気になった上、質なインテリアが印象的。

本紙でも紹介した新作コレクション「クレドゥ・カルティエ」をはじめ、自社ムーブメント搭載の人気コレクション、カリブルシリーズなど、豊富なラインナップをじっくりと鑑賞できる。

歴史と伝統、独創的スタイルなど、ブランド全体の精神を確認できる貴重な場。ぜひ一度、足をお運びの上、本物のカルティエ体験を。

■取扱ブランド
カルティエ、ロレックス、オメガ、タグ・ホイヤー、モーリスラクロア、グッチ、グランドセイコー、クレドール など

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/10:00~20:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp